

他人事ではない...



一気に読んでしまいました。特に前半の「化学物質汚染」に関する部分は、今まで読んだ本の中では一番説得力があるように思います。著者とご家族の体験はすさまじい一言に尽きますが、勇気を持ってここまで書かれたことに拍手を贈りたいです。やはりアレルギーを克服するには「何とかして暮らしを変えたい」と願う気持ちが大切なのだと、このことを改めて教えられました。過激だけど姿勢は立派タイトルの割りに内容は過激…。素人ならではの表現もあるけど、読みやすい文章で、今迄知らなかった事も多く本当に面白く参考になりました。住宅関連の本を何冊も読んでるけど、これらの本にありがちな他者を中傷し、自分をたてるといった所がなく好感が持てる。

ただし、健康住宅と言えば自然住宅という流れに一考を即す内容で今後波紋を呼びそう。筆者が敢えてその批判も受け入れるつもりで書いているのだから、その姿勢は立派とも言える。たぶん、どの本よりも高気密・高断熱住宅の正しい知識が得られるんじゃないかな？
自然住宅を信じ込んでる人は最初抵抗があるかもしれないけど、良く読めば納得出来る内容。高気密、高断熱の家に住んでみたくなりました。高気密、高断熱の家を建てられた方の本で、住宅の性能としてどうしても譲れないところ、また日本の気候ならそこまでの過剰な設備は必要ないということも書いてありこれから新築するものにとても参考にになりました。



200年住宅って何？ 住いの長寿命化って何？



豊かな住生活を実現するために

私達の未来のために、そして地球のために住いに関する新たな考え方が必要になってきました。そのひとつが、住いの長寿命化です。

ポイントは、

- ・住宅は、長く大切に住み継がれるべきだということ
- ・住いの維持・メンテナンスが重要な事
- ・土地だけでなく、良い住いは評価されるべきだということ

耐久性
丈夫だからこそ次の代にバトンタッチしていける

耐震性
地震に強くてこそ、日本の長寿命な住い

可変性
子供たちや次に住む人が暮らしやすく、アレンジし易い住い。ライフスタイルに合わせて間取りを変えやすいように

いい事がいっぱい!!

長寿命な住いなら 地球にやさしい 次世代は、リ ランニングコスト 戸建ての賃貸市場
産業廃棄物、CO2 暮らしの実現! フォームの金額 が安い! が出て来る…など
削減が可能! だけでOK!



笑って笑って
ハイ! 笑って

友人：「3度の飯より好きなものは何？」
私：「4度の飯！」

町内会の掲示板に
「家庭教師やります。
対称：小～中学生」
という張り紙があった。
国語だけは
教わりたくない。



子供の頃、「どうせすぐに成長するのだから」と、いつも大きめの服を着せられていた。高校卒業頃になって、「これ以上大きくなれないから」と、初めてぴったりの服を買ってもらった。ちょうど良すぎて、変な気分だった。



遅刻しそうだったので教職員専用のエレベーターに乗ったら、途中の階で先生と乗り合わせてしまった。「どうして君が乗ってるんだ？」と注意され、とっさに「あの、階段が故障中で・・・」と言い訳した。

高校生の息子の弁当に、マツタケご飯を詰めた。見栄えが良くなるように、マツタケを一番上に並べておいたら、返ってきた弁当箱の内ぶたにマツタケがへばり付いていた。

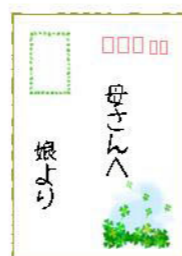


母の日の語源・由来



母の日は、1905年5月9日、アメリカのフィラデルフィアに住む少女「アナ・ジャ・ベイス」が母の死に遭遇した事で、生前に母を敬う機会を設けようと働きかけた事に由来する。やがてアメリカ全土に広まり、1914年には当時の大統領「ウィルソン」が五月の第二日曜日を「母の日」と制定し、国民の祝日となった。アナの母親が白いカーネーションを胸に飾るようになり、母の日にかネーションを贈る習慣へ変化していった。

この他、古代ローマ時代、神々の母リ-アに感謝する春祭りからとする説や、17世紀イギリスで「復活祭(イ-スタ-)」の40日前の日曜日を「マザーズ・サンデー」とし、母親と過ごすために出稼ぎ労働者を里帰りさせていた事に由来する説もあるが、「母の日」と似たような行事があったと考えるのが妥当であろう。



日本では、明治末期頃に「母の日」の行事が行われ始め、1915年(大正4年)に教会で行われてから、一般にも少しずつ広まっていき、1937年(昭和12)に森永製菓が告知をしたことで、「母の日」は、全国的に広まったとされる。また、昭和初期から戦後しばらくの間は、当時の皇后の誕生日であった3月6日が「母の日」とされていた。

母の日
会いに行くのが一番!
声を届けるのが一番!